

洞爺湖有珠山ジオパークでは 防災・減災学習をサポートしています！！



実物に「触ってみる」のも大切な経験



現地をよく知る講師が案内します



ヘルメットを着用しての現地学習



有珠山の周りには、日本でも数少ない「噴火災害遺構」がたくさん残され、学習に役立てられているよ！

洞爺湖有珠山ジオパークの大きなテーマのひとつに『火山との共生』があります。再び起こるかもしれない有珠山噴火に備え、過去に起きた噴火や災害について知ることが大切です。

そこでジオパーク推進協議会では、この地域で育つ子どもたちが学習できるよう、ジオパーク圏域内の学校等で行われる防災・減災教育をサポートしています。

昭和新山や有珠山周辺の災害遺構等の現地で学ぶ野外学習の他、避難所体験や火山について学ぶ防災・減災学習等への「講師派遣」「ヘルメットの貸出」「学習素材の配布」を続けており、ふるさと学習や理科の授業に取り入れる学校が増加しています。

令和4年度はのべ350人の児童生徒が、自然災害について学びました。いただいた感想を紹介します。

子どもたちの感想（抜粋）

- ☆ 噴火の時に、音が出ない場合があると知って驚いた。
(小学3年生)
- ☆ 噴火は悪いことだけでなく、温泉ができたり、野菜や果物がとれる場所になったり、いいこともあった。
(小学4年生)
- ☆ 昭和新山の地面が温かくてびっくりした。(小学5年生)
- ☆ 噴火の危険性を学んだだけでなく、新しく知ったこともあったので、家族にも伝えたい。(中学3年生)
- ☆ 噴火の兆候が現れたら逃げる、絶対に戻らない、面白半分で近寄らない等、改めて思った。(中学3年生)
- ☆ 噴火の対策をしっかりと、自分や周りの人を守るようにしようと思った。(中学3年生)
- ☆ 被災遺構を見て、噴火を経験していない私たちにもその怖さが伝わってきた。(高校1年生)